

夏だ！川あそび・川まつり 特集

P1-3 夏の思い出いっぱい！夏のイベント報告

新河岸川流域情報

- P4-5 新河岸川流域紀行 歩く 見る 聞く
- P6 市民の広場 一市民活動レポート
『里山ウォーク開始』
『身近な川の一斉調査 データ検討会のお知らせ』
- P7 新河岸川流域川づくり連絡会報告
- P8 イベントカレンダー
新所沢事務所通信
事務局から



思い出いっぱい！夏のイベント 報告

今年も川まつり・川あそびが各地で行われました！笑顔がいっぱい！

川あそび・川まつり MAP



魚がとれたよー！



僕にも魚、さわらせてー！



今年の夏も、新河岸川流域の各地で川あそび・川まつりのイベントが開催されました。志木市の柳瀬川でも初めて川まつりが行われ、川でのイベントが環所河岸川流域に広がり始めています。

まだ、新河岸川流域の川は日常的に子どもたちが遊べる環境とはいえません。しかし、子どもたちを少しずつ川へ呼び戻しながら、子どもたちが遊べるような川の姿に戻す努力も進んでいます。

笑い声の響く川、そして元気な新河岸川流域になることも、今後の継続的な活動が展開できれば夢ではないでしょう。



新河岸川流域 夏のイベント 報告

みんなで作る流域 みんなで支える流域

新河岸川流域の各地から、夏に行われたイベントの報告が寄せられましたので、お伝えします。新河岸川流域の支流は、普段はなかなか近付き難く、また泳ぐには危険な場所もあります。しかし、危険だからといって川に近付かないのではなく、川での安全な遊び方でも大人も子どもも学習しながら、身近な川をより身近に存在するために、川あそびをはじめとして様々な活動が行われています。多くの人が身近な川へ関心を寄せることで、その姿も変わっていくはず。

掲載されている活動については、新河岸川流域新所沢事務所までお問い合わせ下さい。
TEL/FAX 042-994-3212

柳瀬川中流域における改修工事検討会報告 7月20日(金)

主催：川づくり・清瀬の会

去る7月20日、島谷幸宏氏(国土交通省 武雄工事事務所長)を招いて清瀬金山緑地公園周辺の改修工事の結果と平成13年度の工事予定区間の工事・既改修の巨石を使った護岸工事・清瀬橋の架け替えと合流工事予定地(工事後の旧川となる右岸には自然豊かな河畔林がある)までの約1.5kmを歩いて検証した。島谷氏から下記のような評価と提言をいただいたので報告する。
■平成12年度、金山緑地公園右岸の改修工事について
河畔林と川を環境的に連続すべきで、遊歩道(管理道路)設置は自然を壊した。橋を架けるなど考え、話し合いが

つかない時は問題を先送りしても良かったのでは…。天然河岸を残すことを考えるべきである。河畔林と川の連続性を復元していくことを考えてはどうか。
■金山緑地公園左岸(平成13年度工事)の工事について
水位計算(不等流計算)を行い、現況断面で掘削の必要があるかどうか綿密に検討する。掘削する必要がある場合は現状の断面形状を平行移動するような形で忠実に再現するとよい。この部分は水裏部であり、背後は公園という余地もあるので護岸は不必要。龍マツなどの隠し護岸も原則的には不要。

■平成11年度施工の左岸の堤防は公園と一体的に考え、管理道路を造らず、HWLから上部の堤防築造しかなかったことは東京都の英断であり、評価できる。
■柳瀬川・空堀川合流工事について
ショートカットによって残る現河道は鹿河川にせず関東圏における貴重な河畔林は流水を流し保全すべきである。
■清瀬市の柳瀬川改修工事は全体的には金山橋下流の河道の直線化。巨石の低水護岸、河畔林の復元等反省すべき課題があり、これからの市民の提言と活動に期待したい。
(記：神沢志朗/川づくり・清瀬の会)

柳瀬・川まつり2001 7月28日(土)

主催：エコシティ志木/埼玉県生態系保護協会志木支部 /志木市立教育サービスセンター

7月28日、それまでの猛暑とうってかわって涼しげな風が吹き抜ける土曜日、志木中学校の北側の柳瀬川で第1回目の川まつりを行いました。参加費有料(1家族300円)にもかかわらず、スタッフを含め63名の参加者があり、川で遊びたい、水に入りたいという強い“需要”をひしひしと感じました。他の流域から、小林さん、菅谷さんなどたくさんの漁師?、師匠、助っ人に来ていただき、投網体験、手網で魚を捕る体験を楽しみました。東京湾から上ってきたボラ、スズキ、ハゼの他にウグイ、コイ、メダカなどが観察でき

ました。今回は、水量と水質の関係で安全性を重視し「魚の観察」がメインメニューでしたが、1日も早く、安心して水につかり、とれたてのアユの試食ができる、柳瀬川がそのような川になることを願っています。そのためにこの地点の水量のほぼ6割を占める東京都の清瀬污水処理場と所沢市の污水処理場からの処理水の水量がもっとよくなることを望みます。とにかく、服を泥んこにして目を輝かせている子どもの姿が印象的でした。
(記：毛利行範/エコシティ志木)



写真上：みんな、魚とりに夢中でした
写真下：投網に挑戦!練習の成果でうまく投網が広がりました



大森の池まつり 8月19日(日)

主催：不老川流域川づくり市民の会、(財)埼玉県生態系保護協会入間支部

久々の涼しい天気の中、入間市、不老川の大森調節池で二回目の大森の池祭りが開催されました。

- 遊びのメニュー：池や土手の生き物探し、藪の中探検、水質検査、魚釣り(手網、投網、ザリガニ取り)、乗り物(カヌー、ボート、熱気球、梯子車、起震車)
- 捕れた魚：フナ、モツゴ、ドジョウメダカ、ザリガニ(冬に水廻れなかった今年は沢山の魚がいました)
- 参加した人：300人

入間市、入間市消防署、入間青年会議所、新河岸川流域河川に関わるボランティア団体、川や生き物に興味のある個人の方々に協力いただきました。ありがとうございました。(記：中田寛/不老川流域川づくり市民の会)



白子川の源流を歩く Part 2 8月25日(土)

主催：白子川の湧水と自然を守る市民の会

第2回目の白子川ウォッチングは子供たちも含めて総勢35名の参加で開催されました。西武線大泉学園駅下車、中島橋から第2調整池のある弥生橋までの間を昔湧水のあった井天地、教学院などの史跡も訪ねながら川に沿って歩きました。小泉牧場では3mも掘れば水みちがあり、大きな水栓の上にいるようだとの話で「大泉」と言う地名の由来を知りました。

この間の白子川は矢板張護岸又はコンクリート張、直線的ですが河床は砂利の部分が多く、水たぎの穴や、東映橋の辺りでは矢板の下からボコボコと

水が湧いていました。数日前までは湯水で細くなっていた流れも、先日の台風のおかげで降り、ザリガニや小魚が見え、川に降りられればもしかしたらもっと多くの生き物に会えるのではないかと思います。

当日の水量の復活を見ても白子川の流域は水みちが地表近くであり、その影響をもちに受けていることを思い知らされます。巨大な調整池を作るわりにより自然に配慮した豊かな水循環の再生を考えられないものだろうかと思えます。(記：須貝郁子/白子川の湧水と自然を守る市民の会)



写真上：中島橋から2班に分れて河川敷を歩き出す



写真上：河床は砂利ですが護岸は矢板直線の河川

北山わんぱく夏まつり 8月5日(日)

主催：北山わんぱく夏まつり実行委員会

北川と北山公園で夏まつりが行われました。北川の水が少なく、水質も悪かったため、カヌー遊びができず、子供達はとも残念がっていました。でも、ザリガニ釣りや火起こしに夢中でした。(写真：下2枚)(記：事務局)



黒目川川まつり2001 8月26日(日)

主催：黒目川川まつり実行委員会

黒目川では元気な水着姿の子供達がいっぱいでした。朝、上流で大雨が降り、一時的に水かさが増して、川遊びが一時お休みとなりましたが、たくさんの魚と子供達の笑顔が見られました。(写真：右2枚)(記：事務局)



写真上下：何度も舟から川に飛んでは舟に戻る。笑い声がひびき、とっても楽しそう。





新河岸川流域紀行

文 松本富雄

歩く 見る 聞く

シリーズ第2回 砂川堀中上流編

今回から新河岸川流域の支流のいくつか、そして支流の特徴を知る場所を歩き、見、聞きしてみたい。

これらの川の中でも砂川は他の川とは異なった要素がある。現在、残念ながら川として認定されておらず、行政上では「砂川堀都市下水道」と呼ばれている。昭和45年に都市計画決定され、大雨時を中心に排水不可能に達した上流部都市の水を流す役割を持たせ、水害から防ぐ目的で大改修が行われた。砂川の最上流はともかくとして（写真1：登天穴付近）ほとんどが三面護岸さらには中下流域ではH字形に深く掘り込まれたコンクリート護岸となってしまっている。排水、下水の流れ込む河道と化している。しかし、かつて砂川は人とのつながりは排水、下水という機能ではなく、もっと深い関係を持っていた。今回は砂川の downstream、中流域を訪ね、かつての人とのつながりを紹介し、砂川の川にもどりたいという呼びを紹介したい。

■水鳥と魚と豊かな自然はあれど 砂川河口付近（富士見市伊佐島地区）

砂川は狭山丘陵北麓に流れをなし、12.992mの旅を終え、伊佐島地区（富士見市）で新河岸川に合流する。合流点にはコンクリート製のアーチ状のトンネル式の水門が設けられており、そこから勢いよく滝のように新河岸川に注がれている。私が写真を撮るべく訪ねたのは夕立のあった翌朝早くであったこともあって、新河岸川へ落ちる水量は普段より多かった。砂川の水の色は茶色く変色していた。新河岸川の水の色と異なっているため新河岸川に落ち込んだ水が新河岸川の水と少しずつ馴染んでいく様子がよく見とれた。茶色く変色した水は関東ロー層（アカツチ）の武蔵野台地を通り貫けてきた旅の記憶である。

しかし、河口の砂川の水には関東ロー層の台地の記憶ばかりが残っているだけではない。悲しい記憶も感じ取れた。臭いである。雨水が多かったこともあってずいぶんすすめられてはいたが、汚水の臭いが感じとれ、都市下水道という砂川に与えられてしまった使命を果たしてきたことを、川は主張していた。

河口にほぼ隣接した上流には、3年前伊佐島調整池が完成した。大雨時に砂川の水は新河岸川に流れ込む前一端この調整池に貯えおかれる。周囲を高い土手に囲まれ、その内部には3年も経過すると葎や真菰（まこも）などの湿地の植物がかなり繁殖し、ところどころ



写真1 登天の池（水溜りに囲まれた自然を保つ）

ろにも溜まっている。3年の間に水鳥の飛来数にもなってきた。今年の冬、ここで水鳥の観察をしている人に出会ったことがあったが、既に12種類ぐらいの水鳥を観察することが可能であるとのことであった。その人は「水鳥にとっては安心して暮らす空間なんです。彼らが病気になるなければいいのですが、下水路なんて汚名をばすしても自然にやさしい川にしてあげなければ…。鳥のエサの小魚もこの調整池にはほぼってくる。汚れているがここに棲もうとするんです。鳥がそれをエサにする。」と語っていた。

確かに洪水配慮はあるが、それは人の為。環境全体に配慮した知恵は、まだまだ欠けていない。

残念ながら写真には撮ることができなかったが、河口の落ち口をみていると、滝の上に水鳥の飛来のようなものが時々キラリと光る。なんだろうか。それは水の飛来ではなく魚が新河岸川から砂川へ組しようとして滝にジャンプする姿であった。ほとんどの魚が滝を越えられ落ちていくが、何匹かは滝を越えて飛ぶ。上流へと登っていくに違いない。「がんばれ、しっかり登れと思いつつも、上流はずっと汚れているし、まだまだ難所が多いんだぞ。無理して登るな！」と複雑な思いで見入ってしまった。



写真2 新河岸川への流れ込む砂川（小魚がこの滝を登ろうとしたときジャンプする）

▲ 砂川の河口、伊佐島調整池へは

ふじみ野駅から「砂川都市下水道」によって徒歩約15分 または鶴瀬駅から市内循環ライブバスで市役所前下車徒歩10分



写真3 砂川畔でウォーキングを楽しむ人

■新しい街と砂川のいにしえ

ふじみ野駅付近（大井町東台、市沢、大井地区）

東武東上線ふじみ野駅は、近年鶴瀬駅と上福岡駅との間に新設された駅であり、駅を中心に区画整理事業が行われ、大型店やマンションが林立する新しい活気のある街である。区画整理事業のすかしも、これまで以上にここに暮らす人々に配慮され、この地区で砂川は生かされた活用がなされている。

□ウォーキングを楽しむ

砂川は、ふじみ野の街の南はすれを流れる。ここでも都市下水道としての機能をもたされているため三面護岸の深い溝を形成しているが、その両岸は区画整理事業により、ここに暮らす人々がウォーキングやジョギングを楽しむような設計や川に沿った雑木林を保存し都市公園を設けている。

両岸に設けられた舗道は人にやさしい木道にしたり桜などの街路樹が植えられ日影を形成している。また、ウォーキングやジョギングを楽しむ人のために歩行距離が分かるようなメートル表示がされた標柱などが整備されている。都市下水道と言え川端にこうした親しみ易い空間が形成されているには少し安心を感じる。また、左岸の斜面林も都市公園として残されているが、ここにはかつて湧水があり、地元ではここに弁天社を建立していたことから弁天の森と呼ばれている。今は湧水が涸れてしまっているのは残念であるが森と名が残ることは嬉しい。

■古代の遺跡と砂川

ふじみ野付近の砂川の両岸には珍しい数の原始・古代の遺跡があり、区画整理がマンション開発に先立ち発掘調査がなされた。中でも、砂川の右岸すなわち区画整理地区の対岸に広がる東台遺跡からは、この付近の暮らしと砂川との関係を知る多くの遺構や遺物が発掘されている。

東台遺跡は発掘調査の結果、旧石器時代のキャンプ跡、縄文時代中期の大集落、平安時代初期の製鉄関連遺構などが発見された。特に製鉄関連遺構は、この付近でも稀有のものであり注目される。

製鉄関連遺構としては、燃料となる炭を焼いた炭焼窯9基、製鉄炉7基、製鉄用炉材粘土探掘穴が発見されており、この遺跡に残された鉄率は5tにも及んだ。

平安時代初期に、この地になぜこれほどまでの特殊な高度な技術を持った製鉄工房群がつけられた意味は…。このことを探るためにはまだまだ周辺の発掘調査がすすまなければ解明はできないが、言えることは砂川は大きな役割を果たしていたと言ったことはわかる。

この付近には①砂川が長い時間をかけて流路に厚く堆積させた粘土層があったこと、②古代武蔵野台地は、そのほとんどが草原であり樹木はあまりなかったようであるが、砂川が形成した低位段丘面は地下水も豊かで肥沃であったため燃料としてのナラや赤松が繁殖していたこと、③製鉄には冷たい水を必要とするが、砂川の水は地下水を集めて流れているため水の確保も容易であったことなどがあげられる。製鉄に必要な砂鉄とは問われると思うが、他地域に発掘されている製鉄関連遺構の多くの場合この地域と同様に鉄の生産地でないことが多い。製鉄の原材料である砂鉄を運びこむことと燃料を運びこむことでは、砂鉄のほうが量少なくても済むのである。1回の溶鉱に1t近くの木炭を必要とするとの聞いたことがある。燃料の木炭の原材料である樹木が豊かであれば溶鉱はできないと聞いた。この発見から読み取れることは砂川の形成した低位段丘面には古代かなりの樹木がおおいっげっていたと想定できる。砂川は古代文化をも華開かせてくれたのである。

▲ 市沢から大井戸にかけては

ふじみ野駅を下車し、東武東上線の線路づたいに鶴瀬駅方面に歩くと砂川に出る。ここを上流へ歩く。

■大井の地名のおこりは大井戸

川越街道、鎌倉街道付近（大井町大井）

ふじみ野の区画整理地区の西端の川越街道近くに、やはり発掘調査され移築復元された大井戸跡がある。これは砂川を下水道として改修する際の昭和50年に改修予定地内の発掘調査で見られたものである。地元では伝承に「大井の地名の起こりは砂川に沿って大井戸があったからだ」と言われてきた。この伝承に基づいて大井町教育委員会が発掘したのが大井戸である。砂川改修によりやむを得ず隣接に移築修復されて保存されている。

この井戸は南北長軸1.8m、短軸1.5mの楕円形を呈し、深さ1.4mと決して深くないが、この底面の一部をさらに深く掘り粘土層直上の砂層から湧く水を導いている。上段の1.4m部分は砂川の砂礫であり、上部は礫のくずれを防止するため広く掘り、かつ周囲をなまこ石で石垣を組んでいる。規模といい、形といい七曲井戸などのロート状井戸とは異なるが、構造は似ている。礫層面の崩れを意図した上段の形成のしかたや水脈近くに至って部分的に深く掘り下げるところなどは礫層面下に必ず伏流化した水脈があることを知った知恵である。



写真4 東台山公園（金山とは明治の頃までこの付近に金山神社があったこと由来する）



写真5 大井戸全景（はるばると東て武蔵野をさかした旅人には甘藷であったことであろう）

この大井戸の西隣には川越街道があるが、この井戸は成立の時代からみて川越街道よりも江戸の東隣の鎌倉街道を意識したものである。武蔵野を旅する人は水の少なさに苦労をしたことは古くから伝承や記録にも残るが、そうした中世の旅人に水を供するためこの井戸が設けられたものと思われる。砂川があるのに何故、その川の隣に井戸を掘る必要があったのかという疑問をなげかける人も多いかと思われるが、最後にそのことに触れて今回の旅は終わりにしよう。

武蔵野を開拓して流れる河川はどの川も水量が決して多くはない。後背地に高い山々を控えた河川であればともかく、いずれも台地であり保水力が少ない。そうすると過水期には河道はあるても水が乾かない状況もしばしば生じる。ことに中でも砂川や不老川はその典型的な川であった。しかし意外や河道近くの地下には伏流化して水脈が形成されているのである。従って河道近くに井戸を掘れば一年中水は枯渇することがないのである。古代から人々の知恵が生かされたのがこの大井戸である。

写真4 東台山公園（金山とは明治の頃までこの付近に金山神社があったこと由来する）





新河岸川流域 市民の広場 - 市民活動レポート -

里山ウォーク開始・トトロの森と荒幡富士コース

報告 北川かっぱの会

第1回・約5kmの行程

北山公園～北川源流・狭山公園・多摩湖～八国山～鳩峰公園・トトロの森2号地～荒幡富士～いきものふれあいの里センター～西武球場前駅

北川源流から海まで歩く「かっぱウォーク」が1年かけ、東京湾にゴールしました。延長約70kmの行程は川の変化を知るだけでなく、そこに生きている生き物、まちの顔や文化・歴史、川仲間との出会いなど、貴重な知識と体験を得ました。この成果を新河岸川流域の聖域である狭山丘陵に移し、狭山丘陵の自然を皆で探究する「里山ウォーク」を企画しました。

第1回目は7月14日(土)、東村山市にある北山公園に集合し出発しました。北山公園では花の終わった菖蒲の株分け作業が始まり、北山たんぼの青々と育った稲が夏の到来を知らせてくれているようです。北川にそって上流へ歩くと東京都狭山公園。ここには北川の源流ともいえる湧水がみられ、



背後に多摩湖(村山貯水池)を抱えています。多摩湖堰堤から見える八国山は狭山丘陵の東麓にあたり、丘陵の先端に延びている場所です。その八国山から久米水天宮・鳩峰八幡神社を通り、山の道へ入ります。このあたりは埼玉県、所沢市で管理されている公園ですが、一般的な多目的利用の公園とは違い、雑木林と自然林を活かした公園となっています。枯木で作られた「虫の家」もありました。途中、トトロのふるさと財団のトラスト基金で購入されたトトロの森2号地があります。鳩峰の森をくぐり抜けて荒幡富士のある市民の森へ。荒幡富士は人の手で造られた築山で、一合目、二合目と標識に沿って山頂へ上ると一面に視界が広がります。狭山丘陵が一望でき、遠区に連な

る秩父連山を眺めることができます。見下ろすと住宅地が目立ちますが、なお更に、この狭山丘陵の起伏に富んだ地形とみどりの大切さを実感しました。市民の森には「いきものふれあいセンター」があり、展示の他にも炭焼きなど体験できる施設もあり、おもしろそうです。ベンチに腰掛け、次回の里山ウォークの見所を打合せ。森の中は木立を風が吹きぬげ爽やかなくらいです。水分もたっぷり補給して市民の森を後にし、第1回目の里山ウォークを終了しました。

第2回については本紙P8をご覧ください。
北川かっぱの会 (☎042-391-2365)
E-mail kapa@abeam.ocn.ne.jp
URL http://www6.ocn.ne.jp/~kapa/
原稿についての連絡は宮本まで☎042-567-3346

新河岸川流域 身近な川の一斉調査

データ検討会のお知らせ

主催 新河岸川水系水環境連絡会

今年も、6月10日の日曜日に「身近な川の一斉調査」が実施されました。約200の測定地点を50を越える団体及び多数の個人参加の方々の協力で、採水・測定することができました。ご協力ありがとうございました。現在、データの入力が終了し、結果の検討が始まるところです。今年は予想以上に希釈が多く、希釈倍率も高い測定会場もあったようす。

また、クリンメジャーによる透視度もデータ数が増え、新河岸川流域の新しい特徴が発見ができるのではと期待しています。

データ検討会は9月24日、朝霞市のリサイクルプラザで、まとめとなる報告会は11月25日、同じく朝霞市の産業文化センターで実施の予定です。多くの方々の参加と発言をお待ちしております。

「里川しんぶん」掲載情報を大募集します!

みなさまからの各流域や地域での活動報告などの掲載記事、『里川しんぶん』に対するご意見や、新河岸川流域に対する思いなどを募集しています。身近な情報などをぜひ、お手紙、FAXまたはEメールで下記までお寄せ下さい。お待ちしております。

〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町2996-6山口ビル1F
新河岸川流域川づくり連絡会 新沢事務所
TEL/FAX 042-994-3212
E-mail singas@vesta.ocn.ne.jp

新河岸川流域川づくり連絡会 報告

平成13年度 第3回～第4回

新河岸川流域川づくり連絡会とは?

国土交通省荒川下流工事事務所と市民の方々の情報交換の場として定期的に開催しています。参加を希望される方、詳しく内容につきましては、荒川下流工事事務所または新沢事務所へお問い合わせ下さい。

第3回 平成13年 6月18日

1. 新河岸川流域フォーラムについて

1) テーマ

- ・昨年度の環境教育ではなく、河川を対象としたテーマとして提案する。
- ・「都市河川をまちの顔とする」を提案する。具体的なアイデアは無い。
- ・水と緑が繋がりが合う川づくりをテーマとして提案する。
- ・各支川での活動紹介、情報交換、流域全体でのスキルアップが重要と思う。
- ・東京都、埼玉県により、各支川の河川改修の現状、問題点などを報告してはどうか。
- ・環境学習、水質調査結果を報告してはどうか。
- ・水循環に関わる機関(下水道・農業等)と連携する必要があると思う。
- ・テーマを複数にして興味の対象を拡大するのも1つの手法ではないか。
- ・行政単位で「住民参加の川づくり」について報告してはどうか。

- ・行政単位で「河川改修の現状とこれから」について報告してもらってはどうか。
- ・住民参加の川づくりとして、河川改修の現状とこれからの、行政に報告してもらってはどうか。
- ・各支川の取り組み(活動報告、活動の障害、環境学習、水質調査)を報告してはどうか。
- ・発表にあたっては、専門用語は出来るだけ用いず、分かり易い表現としてほしい。
- ・市民と行政との一体的取り組み例を示してはどうか。
- ・市民が役立つワークショップも視野に入れてはどうか。

2) 会場

- ・会場は各支川の持ち回り方式を提案する。
- ・流域内の市民会館を活用することを提案する。

3) 時期

- ・準備期間が必要なので、来年やるのであれば秋がいいと思う。

第4回 平成13年 7月25日

1. 新河岸川流域しんぶん「里川」について

7月30日発行予定の「里川」の内容を確認した。今回の連絡会では不老川の懇談会メンバーのみの参加であったため、その他の流域の情報に関しては後日確認を要請する。

2. 新河岸川流域フォーラムについて

- ・コンサルタントの作成した新河岸川流域フォーラムのたたき台の説明を行い、内容について協議した。
- ・現地視察を行うのであれば、「住民参加の川づくり」のテーマにあった川(流域)を選ぶ必要があるように工夫してはどうか。テーマは「住民と行政参加の川づくり」としてはどうか。
- ・コンサルタントの提示したものはあくまで一例であり、流域フォーラムをどのような形式、流れで行うかを話し合う必要がある。
- ・テーマや内容についても、より多くの人々に関心を持ってもらえるように工夫する必

- ・要がある。PRの方法なども重要。
- ・ある対象地に対して、フォーラムの中で整備計画のようなものをまとめ上げるような内容の一つとして考えられる。
- ・1つのアイデアに対して管理上設けられている権を取り除いて、これまでは入れなかったところにみんなで入って入ることを提案する。
- ・開催時期については昨年度と同様に2月頃に開催するという意見があったが、現地視察などで水に触れ入り入ったというものは、季節的に難しい。
- ・河川の管理・整備に関して、異だけではなく、市の関係者もより積極的に取り組んでもらえるようなフォーラムの方向づけが必要である。

3. その他

今回の川づくり連絡会は出席者が少なかつたため、欠席者からもアンケートなどで意見を収集して今回の連絡会で再度話し合う必要がある。

(開催場所) 新沢事務所 本紙P8参照(お問合せ) 新沢事務所 または、新河岸川流域川づくり連絡会事務局 国土交通省 荒川下流工事事務所 調査課 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346

- ・来年でもいいのではないかと思います。
- ・秋は忙しい。来年の2月、3月だったら市民の会としても協力できる。
- ・行政の参加を考えると毎年2月末～3月初に開催する方が良いと思う。

4) フォーラムの形式

- ・現地を見る事が基本であり、行政のメンバーが参加したフィールドワーク(屋内外で行う)を提案する。
- ・各支川単位で分科会とし、最終的に各々のパネラーが参加する流域でのパネルディスカッションを提案する。
- ・フィールド調査と連携した理想の川マップづくりを提案する。
- ・流域の市町村関係者に参加を要請する必要があると思う。
- ・支川の活動情報をシンポジウム形式で発表する事を提案する。例えば1年の活動をパネルで展示したり、冊子とりまとめたりする。
- ・フォーラムを継続することが大切であると思う。

2. 里川の構成について

- ・定期的に発行する必要があると思う。
- ・対行政、対市民に偏向しないような工夫してほしい。
- ・組織単位を強調しすぎないように配慮してほしい。
- ・色んな人達が興味を持つように工夫してほしい。
- ・関心を持っているけどよく知らない人やもっと関心を持ち参加していきたいけどヒントがない、きっかけづくりが必要だと思う。

3. その他

- ・本日の討議概要を添付し、構成メンバー全員にアンケート用紙を送付する。
- ・次回の川づくり連絡会の日程は未定ない。毎月開催する必要がある、毎月開催する必要がある。

第5回の内容は次号でお伝えします。第6回以降の日程は未定ですので、事務局または新沢事務所へお問い合わせ下さい。

Information

イベントカレンダー

第2回 里山ウォーク

コース：柳瀬川源流～狭山湖～さいたま緑の森博物館～六道山公園～箱根ヶ崎までの約8km

日時：9月15日(土・祝) 10時～15時
(雨天順延)

集合：西武球場前駅改札口 午前10時
参加費：200円(保険料込み)
持ち物：弁当・雨具
問合せ：北川かっぱの会
TEL 042-391-2365
E-mail: kapa@beam.ocn.ne.jp
URL: <http://www6.ocn.ne.jp/~kapa/>

*本紙6ページに、第1回 里山ウォークの報告が掲載されていますので、併せてご覧下さい。

新河岸川流域でのイベント情報を募集しています。フィールドワークや学習会などの情報もご連絡下さい。

イベントに関するお問い合わせは

新河岸川流域 新所沢事務所 TEL/FAX 042-994-3212

変更も考えられますので、事前にお問い合わせ下さい。

彼岸花のむれ咲く川辺の樹の名札つけウォーキング

日時：9月22日(土) 午前9時30分～午後1時
集合：入間市藤沢体育館前
持ち物：昼食、水、軍手 参加費：100円(保険代)
申込み：042-958-4668(権田氏宅)
主催：不老川流域川づくり市民の会

白子川ウォッチング 弥生橋～越後山橋

日時：9月24日(月・祝) 午前9時30分～午後3時
集合：比丘尼公園(新白通り側入り口付近)
持ち物：筆記用具、昼食、飲み物、帽子 参加費：100円(保険代)
申込み：048-462-3183(事務局 堤氏)
主催：白子川と流域の水環境をよくする会

新河岸川流域フォーラム 準備会メンバーの募集

新河岸川流域フォーラムを開催するにあたり、フォーラムの企画に参加して下さる方を募集しています。フォーラムにむけた準備会の日程や詳細については、新所沢事務所へお問い合わせ下さい。多数のご参加をお待ちしております。

新所沢事務所通信

新所沢事務所の利用が、さらに便利になります！

新所沢事務所にあります資料・書籍のリストをホームページで公開します。お探しの資料や書籍などがございましたら、ホームページをご覧になってみて下さい。また、ご利用になりたい資料・書籍がございましたら、新所沢事務所へお問い合わせ下さい。資料・書籍の閲覧でも新所沢事務所をご利用下さい。
URL <http://www5.ocn.ne.jp/~singasi/office.html>

開館時間

月・水・金曜日 午後1時～午後5時
土・日曜日・祝日 午前10時～午後5時
火・木曜日 休館

ご使用になる場合は、開館時間の変更も可能です。ご利用の方は新所沢事務所までご連絡下さい。TEL/FAX 042-994-3212

案内地図



事務局から

川あそび・川まつりが新河岸川流域の各地で開催され、普段は子どもの姿が少ない川にも子どもたちの笑顔が溢れ、生き活きた元気な光景でした。

「夏になると子どもたちが集まってくる！」というような新河岸川流域になる日が一日もはやく来てくれることが望まれます。

